

平成25年行政事業レビューシート

(文部科学省)

事業名	男女共同参画社会の実現の加速に向けた学習機会充実事業		担当部局庁	生涯学習政策局		作成責任者	男女共同参画学習課長 藤江陽子	
事業開始・終了(予定)年度	平成24年度～未定		担当課室	男女共同参画学習課				
会計区分	一般会計		政策・施策名	政策目標1 生涯学習社会の実現 施策目標1-2 生涯学習を通じた学習機会の拡大				
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	-		関係する計画、通知等	第3次男女共同参画基本計画				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	第3次男女共同参画基本計画では「地域における男女共同参画」、「男性、子供にとっての男女共同参画」があらためて強調されていることから、男女共同参画社会の実現の加速のため、男女共同参画の視点を地域づくりに反映できるような女性人材の育成や男性にとっても多様な選択が可能となるよう男性を対象とした男女共同参画の学習機会の充実を図る。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	東日本大震災時における物資提供や避難所運営で女性の視点が入らず配慮が足りなかった例が見られたことを踏まえ、地域づくりの中でも、これまでに以上に女性の参画が求められている防災分野について女性関連施設で実施された学習プログラムを収集し、事例を提供することで地域における女性人材育成を支援する。また、男性の中でもこれから社会で活躍する男子学生を対象に、男女の働き方や家庭生活に関する現状を学び、男女が共に活躍できる社会について考えるための機会を提供し、全国の大学等へ実施報告等の成果の普及を図る。							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算 状況	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度要求		
		当初予算	—	—	19	14	13	
		補正予算	—	—	—	—	—	
		繰越し等	—	—	—	—	—	
	計	—	—	19	14	13		
	執行額	—	—	15	—	—		
執行率(%)	—	—	80.0%	—	—			
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標		単位	22年度	23年度	24年度	目標値	
	固定的性別役割分担意識に反対(どちらかといえば反対を含む)の者の割合 ※男女共同参画社会に関する世論調査		成果実績	%	55.1 (21年度)	—	45.1	45.1%より増加 (27年度)
	都道府県・市町村教育委員会における男女共同参画に関する社会教育学級・講座の開設状況		成果実績	%	—	—	—	489件 (25年度)
			達成度	%	—	—	—	—
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	22年度	23年度	24年度	25年度活動見込	
	男女共同参画に関する男子学生向けワークショップの開催回数	活動実績 (当初見込み)	回	—	—	2回	—	
				(—)	(—)	(2回以上)	(※)	
	男女共同参画に関する男子学生向けワークショップの受講者満足度(%)	活動実績 (当初見込み)	%	—	—	86.5	—	
				(—)	(—)	(80%以上)	(※)	
男女共同参画の視点からの多様なキャリア形成支援のための教材等作成 ※平成25年度については男性学生向けのワークショップの成果も踏まえつつ、上記のアウトプットを行う。	活動実績 (当初見込み)	箇所	—	—	—	—		
			(—)	(—)	(—)	1点以上		
地域づくりに参画する女性人材育成のための学習プログラムに関する事例集等の配付	活動実績 (当初見込み)	箇所	—	—	388	—		
			(—)	(—)	(388箇所)	(388箇所以上)		
単位当たりコスト	2,086円(1,251,450円/600部)		算出根拠	単位当たりコスト①=X/Y X=1,251,450(執筆謝金、作成・印刷費)、Y=600(部数) ※成果物(事例集)1部当たりに要した経費を「単位当たりコスト」として算出				
	12,563円(954,810円/76名)			単位当たりコスト②=X/Y X=954,810(ワークショップ計2回の開催に要した経費)、Y=76(ワークショップ計2回の参加人数)				
	651円(976,184円/1,500部)			単位当たりコスト③=X/Y X=976,184(作成・印刷費)/Y=1,500(部数) ※成果物(ワークショップ報告書)1部当たりに要した経費を「単位当たりコスト」として算出				
平成25・26年度予算内訳	費目	25年度当初予算	26年度要求	主な増減理由				
	諸謝金	1百万円	1百万円					
	職員旅費	2百万円	2百万円					
	委員等旅費	1百万円	1百万円					
	庁費	10百万円	9百万円					
計	14百万円	13百万円						

事業所管部局による点検															
項目		評価	評価に関する説明												
国費投入の必要性	広く国民のニーズがあるか。国費を投入しなければ事業目的が達成できないのか。	○	<p>本事業は、第3次男女共同参画基本計画で改めて強調されている分野(男性に対する男女共同参画の教育・学習、地域づくりへの女性の参画)に関するものであり、事業の優先度は高い。</p> <p>特に、男子学生を対象とした学習や地域づくりのうち防災をテーマとした学習については、現状では講演・講義形式による実施が多いため、この分野における男女共同参画の一層の推進にあたり、国が参加型の学習プログラム等、より学習効果の高いモデルを示すことで地域や民間における取組を支援する必要がある。</p>												
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○													
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。	○													
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	<p>事業の実施にあたっては会場経費の削減を行う等の効率化を図るとともに、支出先の適切な選定や実施内容の精選により、単位当たりコストを妥当な水準としている。</p> <p>また、費目・用途については講師や執筆者への謝金、旅費、印刷製本費等、事業目的に即し、真に必要なものに限定している。</p>												
	受益者との負担関係は妥当であるか。	○													
	単位当たりコストの水準は妥当か。	○													
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	—													
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○													
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	—													
事業の有効性	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	○	<p>本事業は参加型のワークショップ等、効果の高い手法を用い、第三次男女共同参画基本計画に基づき男女共同参画を推進するため、定量的な指標を立てた上で実施している。</p> <p>さらに当事業で得られた成果は、大学や女性関連施設が利用しやすいようパンフレットにして配付するとともに、広く一般にも利用できるよう、ホームページへ掲載を行っている。</p>												
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○													
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○													
重複排除	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)	—	<table border="1"> <thead> <tr> <th>事業番号</th> <th>類似事業名</th> <th>所管府省・部局名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>				事業番号	類似事業名	所管府省・部局名						
	事業番号	類似事業名					所管府省・部局名								
点検結果	<p>防災分野における女性の参画は今後一層進めるべき分野であるが、一定のプログラムを通じて女性人材を育成している女性関連施設は少なく、今回事例の提供を行ったことは今後、防災分野の女性人材育成を検討している地域の女性関連施設を支援する上で重要な取組である。また、男女共同参画に関し、男子学生を対象としたプログラムはこれまでになく、男子学生向けの事業を検討している大学や女性関連施設へ学習モデルを提供することは意義がある。</p> <p>また第3次男女共同参画基本計画において、地域における身近な男女共同参画、男性にとつての男女共同参画は改めて強調されている視点であり、男女共同参画社会の実現の加速のため、本取組により得られた成果の普及を引き続き行うべきである。</p>														
外部有識者の所見															
<p>本事業においては、防災分野における女性人材育成や男子学生を対象とするプログラムの提供など、これまで取組が少なかった分野や対象への一定の学習モデルを示したことは評価できる。しかしながら、より効果の高い事業とするため、さらに成果を普及させるための方策を検討すべきである。</p>															
行政事業レビュー推進チームの所見															
事業内容の改善	<p>1. 事業評価の観点:本事業は、男女共同参画の視点を地域づくりに反映できるような女性人材の育成や男性を対象とした男女共同参画の学習機会の充実を図ることを目的に平成24年度から実施している事業であり、事業評価に当たっては予算執行状況の観点等から検証を行った。</p> <p>2. 所見:女性の参画を推進すべき防災分野への事例提供や、男子学生を対象とした学習モデルの提供など、これまで取組が少なかった分野や対象への一定の学習モデルを示したことは評価できる。今後においては、より効果の高い事業とするため、さらに成果を普及させるための方策を検討しつつ、更なる事業の効率化を目指し積算単価を再検証するなど、引き続きコスト削減に努めるべきである。</p>														
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況															
縮減	<p>本事業については行政事業レビュー推進チームの所見を踏まえ、より効果的な成果の普及に向けた事業内容の効率化等について検討を行った結果、諸謝金、旅費、庁費について積算の見直しを行い、概算要求に▲1.4百万円を反映した。</p>														
備考															
<p>○成果物公表先 ホームページ「男女共同参画社会の推進のために」 http://danjogaku.mext.go.jp/ ○本事業の参考となる資料 ホームページ「第三次男女共同参画基本計画」(内閣府男女共同参画局) http://www.gender.go.jp/about_danjo/basic_plans/3rd/index.html</p>															
関連する過去のレビューシートの事業番号															
	平成22年	—	平成23年	—	平成24年	新24-0001									

本省執行分

文部科学省
14百万円

- ・諸謝金 1百万円
- ・委員等旅費 2百万円
- ・職員旅費 1百万円
- ・庁費 10百万円

・地域づくりに参画する女性人材の育成のための学習プログラムに関する事例集の作成・配付
・男性を対象とした男女共同参画についての学習機会の学習機会の充実のためのワークショップの実施、報告書の作成、配付

※庁費の執行は消耗品の購入等であり、1件百万円以上の支出はしていない。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位：百万円)

費目・使途
 (「資金の流れ」に
 おいてブロックご
 とに最大の金額
 が支出されている
 者について記載
 する。費目と使途
 の双方で実情が
 分かるように記
 載)

A.			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
	該当なし				
計		0	計		0
B.			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1					
2	該当なし				
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					